

風間浦村
まち・ひと・しごと創生総合戦略
【第3期】



令和7年4月
青森県 風間浦村

目 次

【1】	基本的な考え方	1
1-1	趣 旨	1
1-2	総合戦略の位置づけ	1
1-3	計画の前提となる社会背景	1
1-4	計画期間	2
1-5	村の将来像	2
【2】	重点プロジェクト	3
2-1	プロジェクト策定の背景	3
(1)	人口減少と少子高齢化社会の進行	3
(2)	基幹産業の衰退	3
(3)	住環境として選ばれる地域づくりの必要性	3
(4)	カーボンニュートラル実現に向けた挑戦	3
(5)	産業力の強化と雇用確保の必要性	4
(6)	積極的な情報発信の必要性	4
2-2	マネジメントサイクルの確立	4
2-3	5つの重点プロジェクト	4
(1)	風間浦村総合戦略重点プロジェクトの概念	5
◆	安心・安全定住応援むらづくりプロジェクト	6
◆	きずな応援むらづくりプロジェクト	8
◆	名物応援むらづくりプロジェクト	10
◆	子育て応援むらづくりプロジェクト	12
◆	健康応援むらづくりプロジェクト	14
【3】	SDGs の理念を踏まえた各種施策の展開	16

風間浦村の将来像

「 村民が生きがいと幸せを実感できる持続可能な風間浦村 」

【1】 基本的な考え方

1-1. 趣 旨

急激な人口減少と超高齢化に的確に対応し、東京圏への人口の一極集中を是正し、地方における「しごと」の創出や「ひと」の流れをつくることにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、平成26年12月、国は「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

本村においても風間浦村まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という)を策定(計画期間:平成27年度～平成31年度)し、令和2年3月に改訂(計画期間:令和2年度～令和6年度)し、地方創生の取組を促進してきました。

しかしながら、人口の東京一極集中には中々歯止めがかからず、新型コロナウイルス感染症等の影響により、社会情勢がこれまでと大きく変化してきた中で、デジタルの力を活用し、地方課題解決や魅力向上の取組の深化・加速化を図るとともに、そのために必要なデジタル実装の取組を推進するため、国は令和4年12月に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定しました。

それに伴い、本村においても地域の実情に応じた人口減少対策の取組や産業の活性化の取組等を推進していくために、「風間浦村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂します。

1-2. 総合戦略の位置づけ

風間浦村まち・ひと・しごと創生総合戦略は、「風間浦村総合計画」の下位計画として位置づけられており、総合戦略の重点プロジェクトや戦略プランを推進していきます。

1-3. 計画の前提となる社会背景

風間浦村の人口は、1955年の4,974人※¹をピークに年々減少傾向にあり、2020年では1,639人と65年間で3,335人※²の減少となっています。地方の人口減少や東京一極集中は全国的な問題となり、地域コミュニティの崩壊や空き家の増加、担い手不足など様々な問題を抱えております。また、近年の大規模な自然災害の発生など地方を取り巻く環境は益々厳しさを増しております。

このような中において、村民が課題を共有し課題解決に向かうため、実効性のある村づくりへの一步を踏み出せる政策展開を図り、「こころ豊かに暮せるゆかい村」を目指します。

※1・※2 人口:国勢調査より

1－4. 計画期間

令和 7 年度(2025年)から令和 11 年度(2030年)までの5カ年とします。

1－5. 村の将来像

風間浦村は、小さいながらも自然の恵みが豊かな村です。津軽海峡の恵みを活かした海の豊かさを守り、漁村文化や習慣を伝承しながら新たな領域へのチャレンジを恐れず風間浦プライドを持って持続可能な地域社会の発展を目指します。

村民が生きがいと幸せを実感できる持続可能な風間浦村

【2】 重点プロジェクト

2-1. プロジェクト策定の背景

(1) 人口減少と少子高齢化社会の進行

風間浦村の人口は、昭和30年(1955年)の4,974人をピークに令和2年国勢調査では、1,639人となり65年間で3,335人の減少となっております。また、住民の半数以上が65歳以上となっております。

この傾向は今後も継続すると予想されており、国立社会保障・人口問題研究所では、令和32年(2050年)には、本村の人口は636人と予想され、そのうち65歳以上人口が373人と予想されています。

(2) 基幹産業の衰退

村の基幹産業である漁業は、就業者の高齢化等の影響により、今後は急激な担い手不足が予測されます。また、観光業に関しては、2000年前後には、26軒あった宿泊施設が現在は9軒まで減少しており、そのうち後継者がいるのは2軒となっております。更には、鳥獣被害による農作物被害や里山の荒廃の進行など、人と獣害の距離が近づき人的被害の恐れもあり、土地利用の有効活用が図られていません。

新規就業支援事業や事業承継を推進し、若年者や移住者などの就業者の増加による産業の再興が喫緊の課題です。

(3) 住環境として選ばれる地域づくりの必要性

風間浦村は、高速交通網体系から遠いことや路線バスの運行本数減少、都市部までの所要時間が長いことなどが何よりの地理的ハンディです。しかし、四季折々に移り変わる海の色や山の色など、自然が近くにある安らげる空間でもあります。また、田舎特有の顔の見える近さが地域の安心・安全に繋がっています。

近年のライフスタイルの多様化に伴い、関係人口や移住人口の増加を目指すためには、選ばれる地域として様々な施策を展開するほか、タイムリーな情報を発信することが重要です。

(4) カーボンニュートラル※1 実現に向けた挑戦

風間浦村では、令和5年3月に「ゼロカーボンシティ風間浦」を宣言し、風力や太陽光、さらには小水力などの再生可能エネルギーの導入による地産地消や森林整備・藻場の造成などによる自然環境の保全に努め、持続可能な社会に向けた取り組みを進めています。

そして、住民・事業者・行政が一丸となって資源循環のむらづくりを推進するとともに、脱炭素社会の実現に貢献するため、2050年までに村内の温室効果ガス排出実質ゼロを目指します。

※1 カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、排出量を「実質ゼロ」に抑えることを指す。

(5) 産業力の強化と雇用確保の必要性

人口が全国的に減少するなか、東京圏への転入超過数は新型コロナウイルス感染症の影響で一時的に鈍ったものの、長期的に転入超過となっており、依然として東京一極集中の傾向が続いています。また若者の流出率は依然として高止まりを示しています。

このような中で、新たな視点に立ちIOT※²などを活用して販路拡大に努めるなど時代に即した対応が必要となっております。

また、村内の魅力的な地域資源を活かした産業の創出や事業者の経営革新・安定化を促すとともに後継者不在企業の円滑な事業継承を促進する取り組みなどを通じ、地域産業の成長・発展に努めることが重要です。

(6) 積極的な情報発信の必要性

風間浦村の地域資源の魅力を継続的にPRし、様々な状況を捉え情報発信に努めることが望まれるとともに、情報発信等の担い手の養成・確保を行っていく必要があり、積極的な情報発信が必要です。

また、風間浦村ファンを増やすには、おもてなしや商品の企画開発を行う施策のほか、情報通信端末利用者をターゲットとした村の情報発信の仕組みづくりや戦略の組み立てが重要なポイントとなってきます。

2-2. マネジメントサイクルの確立

本総合戦略では、5年間の取り組みに対する各施策分野の基本目標を設定するとともに、各施策について成果指標を設定し、検証・改善を図るための仕組みとしてPDCAサイクルを運用します。

このPDCAサイクルは、風間浦村まち・ひと・しごと創生推進会議による検証を実施し、その結果や効果的・戦略的な取り組みの企画立案や実効性の高い事業の実施を図ります。

2-3. 5つの重点プロジェクト

人口ビジョン及び総合戦略で描く村の将来像を実現するためには、全ての施策について画一的に実施することは、行政サービスの質・量ともに村の財政バランスから非常に難しい状況です。

また、村が直面する人口減少と住民ニーズを検討し、人口減少抑制に向けた総合戦略の「5つの重点プロジェクト」の方向性は、前計画を踏襲します。

※2 従来インターネットに接続されていなかった様々なモノ(センサー機器、駆動装置(アクチュエーター)、住宅・建物、車、家電製品、電子機器など)が、ネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続され、相互に情報交換をする仕組みです。

(1) 風間浦村総合戦略重点プロジェクトの概念

村の人口減少対策に対応していくためには、社会減、自然減対策により人口減少のスピードをできるだけ抑制しながら、将来の人口規模を見据えた選択と集中を基本とし、この村を持続可能な地域に再構築していく必要があります。

また、国では各地域の社会課題解決や魅力向上を図るためには、デジタルの力を活用しつつ、①地方に仕事をつくる、②人の流れをつくる、③結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④魅力的な地域をつくるという4つの取り組みの推進をしています。

そこで、国の総合戦略における施策の方向性と本村の前計画の総合戦略を勘案し、「安心・安全定住応援むらづくりプロジェクト」、「きずな応援むらづくりプロジェクト」、「名物応援むらづくりプロジェクト」、「子育て応援むらづくりプロジェクト」、「健康応援むらづくりプロジェクト」の5つの重点プロジェクトに取り組みます。

No.	風間浦村総合戦略重点プロジェクト名	関連する国の施策の方向性
1	安心・安全定住応援むらづくりプロジェクト	①地方に仕事をつくる ②人の流れをつくる
2	きずな応援むらづくりプロジェクト	②人の流れをつくる ④魅力的な地域をつくる
3	名物応援むらづくりプロジェクト	①地方に仕事をつくる
4	子育て応援むらづくりプロジェクト	③結婚・出産・子育ての希望をかなえる
5	健康応援むらづくりプロジェクト	④魅力的な地域をつくる

安心・安全定住応援むらづくりプロジェクト

1. 基本目標

- ・豊かな自然を好む移住者を誘い、定住を促進するための情報発信に努めます。
- ・安心・安全に暮らすための環境整備に努めます。

○ 数値目標

成果指標	数値目標
年間転入転出者数	転出超過20人以内

2. 基本方向

- ・風間浦村へ新しい人の流れをつくることのできる施策であること

3. 具体的な施策と成果指標

具体的な施策・事業	内容	成果指標
空き家等活用事業	空き家バンク制度の周知を図り、空き家情報や奨励金制度の情報発信に努め定住促進に繋がります。	・空き家バンク登録件数 10件/5年間 ・定住奨励金活用実績 5件/5年間
地域おこし協力隊導入事業	基幹産業である漁業と観光業を活性化し、地域おこし協力隊制度を活用しながら円滑な事業承継をバックアップし、地域経済の持続化を図ります。	・地域おこし協力隊導入 R11年度 5人
一人暮らし高齢者訪問事業	一人暮らし高齢者宅を訪問し、悩み事の相談に応じることで安心感を抱けるような生活環境の充実に努めます。	・一人暮らし高齢者訪問件数 一月当たり／115件
家庭ゴミ減量大作戦事業 part 2	一般家庭から排出される可燃ゴミの50%が生ゴミであり、排出方法の工夫によるゴミの減量化を目指します。	・一人一日当たりのゴミ排出量 802 g /年以下
海岸漂着物地域対策推進事業	海岸に漂着した廃プラスチック類等を業者委託又は地域住民ボランティアを活用し回収及び処分することによって、村内の海岸線の環境美化を図ります。	・年間の回収・処理重量 年間 6 t
防災意識啓発事業	防災訓練等の積極的な参加の促進及び各種啓発活動を実施することで、住民の防災意識の向上を図ります。	・防災訓練の参加者 毎年度 200人

4. その他関連する施策

- 交通弱者支援事業

地域医療機関受診者を対象として、交通弱者へ配慮したコミュニティバスの運行を行います。

- ゼロカーボンシティ関連事業

令和4年3月に、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ風間浦」を宣言しました。再生可能エネルギーの検討・普及、省エネルギー設備の導入促進や資源循環の推進を図ります。

- 防災拠点整備事業

避難所等の防災拠点となる施設の整備や防災情報伝達に係る整備、防災備品等の整備を行い、住民が安心して暮らせる地域づくりを実施します。

- マッチングシステムによる婚活への支援

マッチングシステム「AI（あい）であう」の活用を促進し、インターネットを活用して出会いを求める人を支援します。

きずな応援むらづくりプロジェクト

1. 基本目標

- ・人と人の絆（村民同士や村民と村外住民）を育むことで関係人口の拡大を図ります。

○ 数値目標

成果指標	数値目標
観光入込客数	70,000人/年（R11）

2. 基本方向

- ・風間浦村へ新しい人の流れをつくることのできる施策であること（観光関連）
- ・風間浦村内外の人と人をつなぐ施策であること

3. 具体的な施策と成果指標

具体的な施策・事業	内容	成果指標
下風呂温泉誘客促進プロジェクト	本州最北の温泉郷である下風呂温泉を中心とした大学や芸術家等と連携し、多様な観光コンテンツを検討・造成し、誘客促進事業を実施します。	・観光入込客数 R11年度 70,000人/年
ゆるキャラ広報事業	県内外のイベントにゆるキャラを参加させることによって、風間浦村の認知度向上をさせ、交流人口等増加を促進します。	・県内外のイベント参加数 12回/年
下風呂温泉海峡の湯利活用事業	下風呂温泉「海峡の湯」をイベント会場として活用し、誘客や温泉の入浴者数増加を図ります。	・イベント回数 4回/年
郷土芸能伝承事業	村内に伝わる郷土芸能の伝承に努めるとともに、デジタル化を図り地域内外への情報発信に努めます。	・郷土芸能演目の習得及びデジタル録画・保存 1目以上/年

4. その他関連する施策

● 下北ジオパーク推進事業

下北ジオパークのテーマは“海と生きる「まさかり」の大地～本州最北の地に守り継がれる文化と信仰～”です。

大地の遺産の保護・保全を行い、学習や教育へ活用することで地域の魅力を再発見し、郷土愛の醸成を図り、また、地域の自然や文化を活用した経済活動への各産業の発展・波及に努めます。

● 大学等との連携事業

少子高齢化の急速な進展に伴い、後継者不足が顕著に表れ様々な部分で人員の確保や行事等に支障をきたしています。

このような中で、県内外の大学等との連携による「持続可能な地域コミュニティ」の維持を目指した取り組みや関係人口の増加を目指します。

● 革新的情報技術活用事業

人口減少・高齢化の進行による担い手不足によって、様々な地域課題が顕在化しています。

このような中で、革新的情報技術を活用した医療・生活交通の確保を図るとともに、スマート農業・漁業、テレワーク等による若者、女性、高齢者など誰もが働きやすい環境を整備することで、地理的な格差の解消を目指します。

名物応援むらづくりプロジェクト

1. 基本目標

- ・山海の幸を活かした雇用場の場づくりと地域資源の有効活用を図ります。

○ 数値目標

成果指標	数値目標
新規就業者数	5年間の累計 3人

2. 基本方向

- ・風間浦村において安定した雇用を創出し、新規就業者の確保・育成を目指す施策であること

3. 具体的な施策と成果指標

具体的な施策・事業	内容	成果指標
未来へ繋ぐ農のプロジェクト	農業を楽しみ、お金に換えるための仕組みづくりを推進するとともに、有害鳥獣による農作物被害の軽減に努めます。	・農作物被害額 R11年度 3万円台 ・青空教室の開催回数 R11年度 2回
未来へ繋ぐ海のプロジェクト	藻場再生活動の支援や所得向上を目指した養殖・販促活動の助成、大学と連携した村内児童生徒の漁業に関する知識向上を図ります。また、藻場の再生活動をすることによって、ブルーカーボンの向上を図ります。	・藻場再生活動の回数 13回/年

※1 陸上の植物が、光合成を通じて二酸化炭素を吸収して固定する炭素の総称。沿岸海域の海洋生物によって固定された炭素（ブルーカーボン）に対していう。

4. その他関連する施策

● 風間浦鮫鰯品質向上・発信事業

風間浦鮫鰯は、平成26年9月に地域団体商標として登録され、厳格なブランド基準の下に水揚げが行われております。

漁業者や漁協関係者などと検討を重ね、更なる品質管理や鮮度保持、新たな販売方法や販路拡大等を図ります。

また、風間浦鮫鰯感謝祭等イベントやその他各種イベントを通して、風間浦鮫鰯の発信を行い、認知度向上を図ります。

● 未来を変える挑戦事業

創業・起業の推進、新産業の創出など多様な雇用創出の支援やクラウドファンディングを利用しやすい環境の整備に努めます。

子育て応援むらづくりプロジェクト

1. 基本目標

- ・村の宝である子供の成長を応援し、人材の育成を図ります。

○ 数値目標

成果指標	数値目標
学校が楽しいと感じる 児童生徒の割合	95%以上

2. 基本方向

- ・風間浦村に暮らす若い世代の結婚・出産・子育てを応援し、風間浦村ならではの教育環境や風土・文化・歴史を学べる施策であること

3. 具体的な施策と成果指標

具体的な施策・事業	内容	成果指標
未来を生きる力の育成事業	I C T教育環境の整備と教育内容の充実を図り、A I 活用講座を実施し、社会で生きる力を育て、わくわくする教育環境を図ります。	・学校が楽しいと感じる児童生徒の割合 - 目標値 95%（毎年度）
教育相談体制の整備	スクールカウンセラーの配置により児童生徒や保護者の心のケアを図り、いじめや不登校に繋がる問題の早期解決を目指します。	・子どもを安心して学校へ預けることのできる保護者の割合 - 目標値 95%（毎年度）
子ども医療費無償化事業	乳幼児から高校卒業までの医療費自己負担分の医療費助成を行い、子育てしやすい村づくりを目指します。	—

4. その他関連する施策

- 保育所維持運営事業

保育所の維持運営は、子育て条件の必須であり、指定管理者制度を継続することにより、保育の質の向上に努めます。

- 学校給食の導入及び食育の推進

食は生命を維持し、子供たちの健やかな成長へ欠くことのできないものであり、多くの生活習慣病の予防など重要なものとなっております。

栄養バランスの良い食生活を身に付けるために、今後も食育を推進し、学校給食の導入についても検討します。

健康応援むらづくりプロジェクト

1. 基本目標

- 健康で活動的な村民を増やし、活力あるむらづくりを進めます。

○ 数値目標

成果指標	数値目標
健康寿命 (平均自立期間)	男：R11年度72.0歳 女：R11年度80.0歳

2. 基本方向

- 時代にあった風間浦村をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携するものであること

3. 具体的な施策と成果指標

具体的な施策・事業	内容	成果指標
がん検診初回精密検査受診勧奨事業	特定健診等で要精密検査者と判定された者に対し、早期受診を勧め、早期治療に結び付けることで平均寿命の延伸を図ります。	・ 要精密検査者の受診率 目標値 100%
介護予防事業	湯っこの会事業及び老人無料入浴事業の際に憩いの場を設け、血圧測定、健康相談及び体操等を行い、介護予防に努めます。また、専門職による介護、リハビリを必要とする方の相談受付や介護予防教室を開催します。	・ 介護予防教室等開催回数 一月当たり／5回以上
地域診療体制継続事業	地域医療の確保と適切な診療環境を確保し、診療所としての医療提供に努めます。	・ 診療所診療日 年間 240日以上
生活習慣等改善事業	地域団体や各種集会への訪問活動等を実施することによって、健康寿命の延伸を目指し、運動習慣や生活習慣の改善等を目指すきっかけづくりを行います。	・ 健康寿命（平均自立期間） R11年度 男性：72.0歳 女性：80.0歳

4. その他関連する施策

- 一人暮らし老人の見守り体制の継続（定住応援再掲）

急速な高齢化に伴い、独居老人の増加が進んでおり、高齢者の安心・安全な生活を守るために、地域包括支援センター職員や民生委員による見守り活動を継続していきます。

- 各種予防接種事業

乳幼児や高齢者などへの各種予防接種の情報提供に努め、発症予防や重篤化防止に努めます。

【3】 SDGs の理念を踏まえた各種施策の展開

グローバル化が進展する中で、経済・社会・環境をめぐる広範な課題を統合的に解決することを目指す SDGs(持続可能な開発目標)への取り組みが国際社会全体で進められています。

国は、「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」において、SDGs のゴールとターゲットのうち、日本として特に注力すべき8つの優先課題を設定しています。8つの優先課題は、健康・長寿の達成を始め、これまで本村が重要な政策課題として掲げ、挑戦してきた分野と軌を一にするものであり、本計画においても、「産業・雇用」、「教育」、「環境」など各政策分野に関わるものとなっており、SDGs の理念を踏まえながら、計画の推進を図ります。



SDGs の17の目標

- | | | |
|----------------------|----------------------|-------------------|
| ① 貧困をなくそう | ② 飢餓をゼロに | ③ すべての人に健康と福祉を |
| ④ 質の高い教育をみんなに | ⑤ ジェンダー平等を実現しよう | ⑥ 安全な水とトイレを世界に |
| ⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに | ⑧ 働きがいも経済成長も | ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう |
| ⑩ 人や国の不平等をなくそう | ⑪ 住み続けられるまちづくりを | ⑫ つくる責任つかう責任 |
| ⑬ 気候変動に具体的な対策を | ⑭ 海の豊かさを守ろう | ⑮ 陸の豊かさを守ろう |
| ⑯ 平和と公正をすべてのひとに | ⑰ パートナリーシップで目標を達成しよう | |

平成 27 年 3 月策定
令和 2 年 3 月改訂
令和 7 年 3 月改訂

風間浦村まち・ひと・しごと創生総合戦略

発行 / 風間浦村企画政策課

〒039-4502 青森県下北郡風間浦村大字易国間字大川目28-5
電話：0175-35-2111/FAX：0175-35-2403